

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2023

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2023
SKIP CITY INTERNATIONAL D-Cinema FESTIVAL 2023

会 期：(スクリーン上映)2023年7月15日(土)～23日(日) / (オンライン配信)2023年7月22日(土)～26日(水)
 会 場：SKIPシティ映像ホール / 多目的ホール ほか
 主 催：埼玉県 / 川口市 / SKIPシティ国際映画祭実行委員会
 後 援：総務省 / 外務省 / 経済産業省 / 文化庁 / (一社)日本映画製作者連盟 / (一社)映画産業団体連合会 /
 (公財)ユニジャパン / (一社)外国映画輸入配給協会 / (公社)映像文化製作者連盟 / (一社)日本映画テレビ技術協会 /
 (一社)日本映画テレビプロデューサー協会 / (協組)日本映画監督協会 / (協組)日本映画撮影監督協会 /
 (協組)日本映画製作者協会 / 全国興行生活衛生同業組合連合会 / 生活衛生同業組合埼玉県映画協会 /
 (一財)デジタルコンテンツ協会 / (特非)映像産業振興機構 / NHK / FM NACK5 / 埼玉新聞社 /
 駐日アルゼンチン共和国大使館 / 駐日イタリア大使館 / 在日ウクライナ大使館 / ウルグアイ東方共和国大使館 /
 デンマーク王国大使館 / ドイツ連邦共和国大使館 / ハンガリー大使館 / リスト・ハンガリー文化センター /
 在日フランス大使館 / アンスティチュ・フランセ
 対 象：一般、映画関係者
 公式サイト URL：<https://www.skipcity-dcf.jp/>

総来場者数(参加数)：(スクリーン上映)7,736人、(オンライン配信)3,657回
 出展参加国と地域数：102の国と地域
 プレス社数：約70社

■開催内容

記念すべき第20回を迎えたSKIPシティ国際Dシネマ映画祭は、好評を得たハイブリッド開催を継続し、スクリーン上映を7月15日(土)～23日(日)の9日間、オンライン配信を7月22日(土)～26日(水)の7日間にわたり開催した。

開催初日には、短編映画『stay』が2020年の本映画祭国内コンペティション短編部門で優秀作品賞を受賞した藤田直哉監督の長編デビュー作であり、映画祭20周年と川口市制施行90周年を記念して製作された『験の転校生』をオープニング作品としてワールド・プレミアで上映し、映画祭の幕開けを飾った。

コンペティション部門では、102の国と地域から、過去最多となる合計1,246本の応募があり、その中から厳正な審査を経て、国際コンペティション10本、国内コンペティション長編部門6本、同短編部門8本を上映。会期中には、国内外から監督、プロデューサーをはじめゲストも多数来場し、Q&Aセッションやトークイベントを行ったほか、来日の叶わなかった海外ゲストのインタビュー動画を上映するなど、制作者と観客との交流の場を設け、作品の理解を深めるとともに、映画祭を盛り上げた。国際コンペティションの審査委員長には映画プロデューサーの豊島雅郎氏、国内コンペティションの審査委員長には映画監督の中野量太氏を迎え、クロージング・セレモニーで各賞の発表・授与を行った。

国際コンペティションでは、最優秀作品賞(グランプリ)を『この苗が育つ頃に』(レーゲル・アサド・カヤ監督/シリア)、監督賞を『僕が見た夢』(パブロ・ソラルス監督/アルゼンチン、ウルグアイ)、審査員特別賞を『シックス・ウィークス』(ノエミ・ヴェロニカ・サコニー監督/ハンガリー)、観客賞を『助産師たち』(レア・フェネール監督/フランス)が受賞した。

国内コンペティションでは、『地球星人(エイリアン)は空想する』(松本佳樹監督)が、国際コンペティション、国内コンペティションを通じた全ての日本作品を対象に、今後の長編映画制作に可能性を感じる監督に対して授与するSKIPシティアワードと、長編部門優秀作品賞のダブル受賞に輝く快挙を果たした。そのほか短編部門優秀作品賞を『猟果』(池本陽海監督)、短編部門スペシャル・メンションを『ミミック』(高濱章裕監督)、長編部門観客賞を『ヒエロファニー』(マキタカズオミ監督)、短編部門観客賞を『勝手に死ぬな』(天野大地監督)が受賞した。



パートナーイベント

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2023

SKIPシティ国際Dシネマ映画祭2023 SKIP CITY INTERNATIONAL D-Cinema FESTIVAL 2023

■ 2023年度の新規取り組みとその成果・特色など

新企画として2つの特集上映「SKIPシティ同窓会」、「中国映画の新境地～KATSUBEN Selection～」を実施した。

「SKIPシティ同窓会」では、映画祭20周年を記念し、本映画祭をきっかけに国内外で活躍する5人の監督（『Winny』松本優作監督、『あつい胸さわぎ』まつむらしんご監督、『ワタシの中の彼女』中村真夕監督、『さがす』片山慎三監督、『浅田家！』中野量太監督）が凱旋し、最新作の上映とこれまでの歩みを振り返るトークイベントを開催した。

「中国映画の新境地～KATSUBEN Selection～」では、映画を語るWEB番組「活弁シネマ倶楽部」との共同企画として、ロカルノ国際映画祭で審査員特別賞を受賞し、近年最高の中国映画の1本と評される、奇オチュウ・ジョンジョン監督初のフィクション長編映画『椒麻堂会』をジャパン・プレミアで上映。上映後には、本作の制作背景や中国におけるアート映画、インディペンデント映画の最新動向について語るトークイベントを開催した。

■ 他イベントや非コンテンツ企業との連携事例などの実施事例、件数や成果

第36回東京国際映画祭との提携企画として、SKIPシティアワードと国内コンペティション長編部門優秀作品賞をダブル受賞した『地球星人（エイリアン）は空想する』を上映。監督・出演者によるQ&Aセッションも実施した。

